

2022 年度 計測会総会 発言録

(司会・小澤)

総会を開始する前に注意事項です。この総会及び講演は録音録画します。また、講演終了後、記念撮影し、計測会ホームページに掲載いたしますのでご了解願います。



またズームで参加されている方は、発言者以外はミュートにしてください。カメラは、総会中はオン。公演中はオフ、記念撮影時はオンにしてください。その都度指示は致します。また、記念撮影時、自分のカメラ画像の名前がわかるように、名字に書きかえてください。ZOOM 接続が切れた場合は再入場をお願いします。

それでは 2022 年度の計測会総会を開催いたします。
計測会会長挨拶。寺倉さんよろしく願いいたします。

(計測会会長: 寺倉)

皆さんこんにちは。
会長の 50 年卒の寺倉でございます。開催に当たり一言ご挨拶を申し上げます。
本日はお忙しいなかにも関わらず多数のご参加をいただきまして、ありがとうございます。
中でも名古屋工業会からは副理事長の浅井様、同じく事務局長の三田様。
名古屋工業大学からはちょっとまだお見えになっておりませんが、理事の江龍様。
理工学科応用物理分野からは、今日のご都合で、オンラインでご参加いただいておりますが、
分野長の高橋様。大変ご多忙の中にも関わらずご出席賜りまして、誠に厚く御礼を申し上げます。



この総会は皆さんご存知のように、対面とオンラインの併用をしております。オンラインでのご参加の方が圧倒的に多いわけではございますが、総勢 60 名余りの方に出席するというお申し出をいただいております。昭和 40 年の第二回卒業生の方から。平成 20 年の卒業の方までご参加頂き、参加者の広がりが、大きくなってきております。これもひとえに、会の活動への会員の皆様のご理解の深まりと喜んでおります。

さて、会員の皆様にひとつご報告がございます。

計測会の会員が増えます。応用物理分野の卒業生が会員となります。

学内の組織の変遷をたどりますと、応用物理分野が計測工学科の流れを汲んでいると捉えることが自然で、応用物理分野と計測会の思いが一致に致しました。

会員の皆様にはご理解をお願い申し上げますとともにご報告と致します。

次に会の役割でございますが、これは言うまでもなく、会員相互の親睦を深めるところでございます。今日のこの総会も親睦を深める大切な場です。

今日、役員 11 名全員が一丸となり準備をしまいいりました。お楽しみいただければと存じます。

また、もう一つ、計測会はホームページを設定開始しております。もう既にそこには様々なコンテンツが掲載されています。

ぜひ会員の皆様はホームページを会員同士のコミュニケーションツールとしてご活用いただければと存じます。

もう一つ会の役割を掲げております。それは私たちの後輩であります学生に役立つという取り組みです。その一つが先輩の方々が引き継ぎ、歴史を刻んでまいりました計測会賞という賞がございます。毎年学部を卒業する成績優秀者に授与をしています。

この賞は学生の間にはブランドと位置づけられているやに漏れ聞いております。これからも継続してこの計測会賞の価値を高めて参ります。

もう一つ学生に役立つという視点で、これからさらに役立つことを見出そうと、今、応用物理分野と意見交換を始めております。来年 23 年度にはスタートできればという思いでございます。決まりましたら会員の皆様にはホームページなどを通じご連絡を申し上げます。

この総会の後、恒例の講演会がございますが、題材は会員の皆様に楽しんでいただくという視点で取り上げています。結構、講演の題材を決めるというのは、なかなか大変なところがございますが、選んでまいりました。もう一つ講演の狙いがございます。それは学生が聞いて少しでも価値があるということを狙っており、学生が普段接しないであろう分野の第一線で活躍する人の生の声を聞くことに、学生がほんの少しでも志を高く、視野を広げていただければという思いをこの講演に込めております。

今日の講演は今、世界で開発競争が繰り広げられている「空飛ぶクルマ」を取り上げました。講師は、「空飛ぶクルマ」を開発するベンチャー企業を率いる経営者です。

空の移動革命へチャレンジする熱き思いを語っていただきます。ぜひご期待ください。

なお、この講演会は応用物理分野に共催いただいております。さらに名古屋工業会に後援を頂いております。

最後になりますが、皆様と皆様のご家族のご健勝とご多幸を願いまして、ご挨拶といたします。ありがとうございました。

(司会)

ありがとうございました。
続きまして、来賓の方々からご挨拶をいただきます。
はじめに、名古屋工業会副理事長、浅井様よろしくお願ひいたします。

(浅井副理事長)

皆様、こんにちは。
ただいまご紹介いただきました。名古屋工業会副理事長の浅井でございます。
本日は名古屋工業会の大坂支部総会と重なりまして、理事長が出席できませんので、私から代わってご挨拶を差し上げたいと思います。



改めまして 2022 年度、計測会の総会開催おめでとうございます。また、お招きいただきまして誠にありがとうございます。

今年度は新型コロナの影響が治まっていない中、計測会会長をはじめ、関係の皆様のご尽力によりまして、このようリアルとオンラインでの併用の総会と言う開催に至りました。皆様のご尽力に改めて敬意を表させていただきます。

先ほど会長からもご紹介がございましたけれども、計測会の総会におかれましては、これまでもさまざまな講演会を開催していただいていると聞いております。中日球団の元スカウトの法元様、あるいは JAXA 元理事の山浦様等、非常にユニークな多方面からのご講演ということをお聞きしております。また、今回も空飛ぶクルクの開発に携わっておられます株式会社スカイドライブの代表取締役 CEO の福澤知浩様のご講演ということ聞きまして、私ども名古屋工業会といたしましても、全国の支部にご案内をさせていただいたところでございます。

さて、名古屋工業会につきましては、母校がさらに輝きを増す大学として発展して行くための支援をしていくこと。および、会員相互の親睦を図ること。この二つを大きな柱として活動をしているところでございます。

この活動を行うに当たりまして、名実ともに全学同窓会という形になっていく必要があると考えておりまして、「全学同窓会へ」を合言葉に、組織のあり方を見直しているところでございます。

その一つが会員定義の見直しでございます。これまで、卒業生で会費を払った方を正会員とし、卒業生であっても会費を納入していない方については全く規定がありませんでした。

しかしながら、概ねの単科会では卒業すれば会員とされておりますので、単科会と工業会が連携するにあたって、齟齬が生じると言うことがこれまでもございました。

今年度の定期総会では定款を改正いたしまして、卒業生ならばすべて登録会員と呼ぶことを決めました。当面はまず呼称だけの変更から始まっておりますけれども、徐々に内容を充実させていきたいと考えているところでございます。

また単科会との情報の共有や行事の協力など、これまで以上に連携を深めてまいりたいと考えているところでございます。

今後とも名古屋工業会の活動にご理解とご協力を賜ります様、よろしくお願い致します。

このような新型コロナによりまして、単科会、工業会、いずれの組織も様々な活動が制限されてきておりますので、早く収束し、以前の活動が戻ってくればと願っているところでございます。最後になりますが、計測会の発展と皆様のご健勝および名古屋工業大学が更なる輝きを増していくことを祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。ありがとうございます。

(司会)

ありがとうございました。

続きまして Web で参加していただいております、物理工学科応用物理分野長 高橋先生。

よろしくお願いいたします。

(高橋先生)

はい、高橋です。聞こえますでしょうか。

本来は会場に向く予定だったのですが、先週、熱を出してしまいまして、抗原検査では陰性だったのですが、やはり、ちょっと用心するべきだと思い、オンライン参加にさせていただきました。物理工学科応用物理分野長の高橋です。



計測会の皆様、計測会におかれましては、日頃より物理工学科応用物理分野の運営を助けていただいております。心より感謝しております。

寺倉会長のお話にもありましたが、実は学科専攻の改組が行われまして、物理工学科の応用物理分野ができたのですが、この改組によって、非常に長い伝統があった「計測」の名前が分野・学科の名前から消えてしまいました。

ただ、その物理工学科応用物理は、ほとんどの先生方が前の機械工学科の計測系のほとんどの先

生が引継いでおりますし、その教育の理念、教育のあり方とかも、その前の計測の名前が付いた機械工学科計測系の内容を引き継いでおります。ですから、我々の、なんとというかアイデンティティと言うんでしょうか、我々は長い歴史を持つ計測分野を引き続けているのだと思っております。ですから、今後とも後輩として応用物理のことを認識していただければ、ありがたいなと思っております。

名前が変わった事は非常に、やはり大きなことでありまして。ともすれば学生たちというのは、OB や OG との絆がいかに大切か、というようなことをあまり認識していないんですね。そういうこともありまして、その絆というものを認識してもらおうと、実感してもらおうと、学生に対して応用物理分野としてやっていかなければならないなと思っております。

寺倉会長からのお話がありましたが、計測会賞というのは、やはり非常に学生にとって重いものになっておりまして、これを受賞できるということは、学生は皆、非常に名誉なことだと思っています。そういう意味で、その絆を深めるためにも、もちろん学生のためにもなっているわけですけれども、計測会賞というのは、とてもありがたいと思っております。また、寺倉会長と、ちょっと話をしているのですが、さらにこれに続くようなものも考えていただいている、本当にありがたいと思っております。

また、最近、産業論という授業がありまして、これは、学生に自分のキャリアを考えてもらうという趣旨で、社会に出て働いて、社会に出て活躍している産業界で活躍している外部講師に講義をしていただくというもので、これも計測会員の大鹿様に講義をしていただいて、大変、学生には興味を持ってもらいました。これも一つ、絆を確立する重要なポイントになったと思います。そういうことも続けてやっていきたいと思っております。

今、大学を取り巻く状況は非常に厳しくなっておりまして、我々も本当に頑張って、計測系を引き継ぐ物理工学科応用物理分野を盛り上げていかなければいけないと思っております。従って、このように我々も学生も頑張っていかなければいけないと思っておりますが、OB、OG の皆様の活躍というものが、やはり応用物理分野や名工大の価値を上げていって下さると思っております、非常に感謝しております。

今後とも物理工学科応用物理分野をよろしくお願い致しますと共に、計測会のご発展を心より祈念しております。拙い挨拶ですが、これで終わりにさせていただきたいと思っております。ありがとうございました。

(司会)

ありがとうございました。

続きまして活動報告を野村さんよろしく願いいたします。

(野村)

皆さんこんにちは。55年卒の野村と申します。

活動報告について発表致します。



資料の上の方ですが、活動概要ということで、この一年の主なイベントを並べております。ちょうど一年前の9月25日に2021年度の計測会総会講演会を、この時はオンラインのみで実施致しました。その後、12月に計測会のホームページを新設しております。この時は、なんとか自前で作ることができましたので、特に外部に委託をするようなことは無く作成できましたので、その辺の費用はかからずに済んでおります。

そして年明け3月に、先程ありました、計測会賞の授与を行っております。これは、物理工学科応用物理分野の成績優秀の方にお渡ししております。今年は寺倉会長から、直接お渡しすることができました。表彰状と高級ボールペンをお渡ししております。高級というのはどれぐらいかというのは。この後、西村さんの会計報告で案内いたします。

4月には、メールマガジンの配信を再開しております。2年間ぐらい止まっておりましたので、内容もちょっと変えまして、配信を行ないました。そして6月に計測会会則の改正を行い、これも先ほどお話がありましたかのように、ここで正式に、物理工学科応用物理分野の卒業生の皆さんを正会員にするということを規定に盛り込むことができました。そして、7月にメールマガジンの配信を行っております。

そして、10月1日、本日、2022年度の計測会総会講演会の開催に至っております。

この一年を通しまして、ホームページの構築とメルマガの再会ができましたので、情報交流の基盤が構築できたのではないかと考えております。

次に、資料の下の方ですが、今後の活動方針を6項目挙げております。

1番目、ホームページを活用し、会員間の情報交流を進めてまいります。

会員の近況報告や、大学のトピックス、講演会録といったものを、既にしておりますけれども、こういったものを掲載して行きたいと思っておりますので、ぜひ会員の皆様からの寄稿をお願い致します。今のところ、大部分が計測会役員からの寄稿なので、是非、いろいろな方からの寄稿をお願いしたいと思っております。

2番目、メールマガジンを年3回程度配信する。こちらには役員会からのお知らせ、トピックス、ホームページ掲載記事の紹介等を載せたいと思っております。

3番目ですが、メーリングリストの整備拡充を進めます。現状、会員とのやり取りは電子メー

ルのみで行っておりまして、個人情報保護のこともあるので、住所や電話番号は一切管理しておりません。

ただ、メーリングリストの方は、現状、800件程度の登録でして、これは全卒業生の1/4程度にとどまっております。もう少し広げていきたいと思っています。

ですので、同期会や企業内同窓会でリストをお持ちの方は是非、提供のご検討をお願い致します。

4番目ですが、学生への計測会への周知を進めるということです。

これは、学生さんは卒業すると自動的に計測会の会員になるのですが、卒業式の日、いきなり明日から皆さんは計測会員ですと言っても、「計測会とはなんぞや？」ということになりますので、できるだけ学生のうちから計測会を周知、広げていくことを行っていきたいと思っております。例えば、就職説明会や計測会賞授賞式で、計測会の紹介やパンフの配布等を行っていきたく考えています。

5番目ですが、これも先ほど寺倉会長からありましたが、学生への貢献や支援活動を行うということです。今、行っているのは講演会です。これは、学生さんが興味をもてる夢のあるテーマにしていくということです。先程ありましたように、去年は宇宙がテーマでありましたが、今年は空飛ぶクルマと、できるだけ面白いものをテーマに行きたいと思っております。他の具体的な活動については、先ほど高橋先生からもありましたように、応用物理分野様と相談して進めていきます。第1回の意見交換会を8月30日に高橋先生にお願いして、寺倉会長との間で行っております。

6番目は名古屋工業会との連携強化ということです。先ほど浅井副理事長からもありましたが工業会と単科会との連携を強くするというのが、工業会の方針にも入っておりますので、我々も協力して行きたいと思っております。

私の方から以上でございます。

(司会)

はい、ありがとうございました。

続きまして決算報告。会計の西村さん、会計監査の守田さん、よろしく願いいたします。

(西村)

計測会の会計をしております48年卒の西村と申します。

2021年昨年度の会計報告と今年度2022年度の予算案を説明させていただきます。

2021年度はコロナによる緊急事態宣言や蔓延防止措置等の発令によりまして、外出自粛を求められました。計測会においても総会や講演会がZOOMでの開催となり、総会後の懇親会は中止させていただきました。その結果、収入は2020年度からの繰越金とそれに対する銀行預金の利息。支出は計測会総会講演会のポスター印刷代、講演会講師の謝礼、それから先程、野村さんの方からご説明がありました計測会ホームページ開設に伴うサーバーの契約料とホームページを作成するソフトウェアのホームページビルダーの購入代、それから今まで会長自身の印鑑を使って銀行の通帳管理をしていましたが、それはちょっと担当者が交代することがあるのでまずいだろうと考え、計測会の印鑑を作らせていただきました。

先ほどお話ありました計測会賞の記念品代。これはけっこう立派なボールペンだと思いますが、クロスの金張りのボールペンをお贈りさせていただきました。

以上、収入は 527,515 円。支出は 95,364 円。差し引き 432,151 円が 2022 年度への繰越金として活動費に充てさせていただきます。

次、今年度 2022 年度の予算案の説明をさせていただきます。

収入の部は 2021 年度からの繰越金 432,151 円と皆様からご提供いただきます運営協力金 20 万円をあわせて 632,151 円を見込んでいます。

また、支出は計測会賞の記念品代として 10,000 円。22 年度の卒業祝賀会の協力金として 20,000 円。2022 年度、今回の総会関係費用として 88,000 円。また、東京支部と大阪支部への支部支援金として合わせて 20,000 円。それから役員会への旅費として大阪支部、東京支部の役員の方への交通費支給 40,000 円。ホームページのサーバーの管理費として 18,000 円。合わせて 196,000 円を見込んでいます。従いまして、来年度 2023 年度への繰越金は 436,151 円となる見込みであります。

この繰越金の推移をグラフで表しますと、このようにあまり良い傾向ではないのですが、毎年減っていく状況にあります。特に昨年度はコロナによって総会後の懇親会が開催できなかったため、当初予算に入れていました工業会様からの支援金が頂けなくなり、その分この 2,3 年前よりはグラフの傾きの下がりが大きくなっています。

ただ、講演会には多くの参加者に来て頂くためにポスターなどをしっかり作りまし、計測会のホームページは野村さんのご尽力で作っていただき、皆さんへ活動状況をお知らせできるようになりました。また、会計事務をやりやすくするために、銀行印なども作っています。

そういうことで若干支出は増えておりますが、なんとか 40 万円台を繰り越せるのではないかと思います。

ただし、来年度の繰越金を今年度並みに確保するためには、予算案で示しましたように、去年は対面での総会が中止となり集めなかったのですが、今年は対面でもなんとかやることができますので、皆様から運営協力金を集めさせて頂きたいと思います。

予算案でお示しました運営協力金 20 万円は、一昨年までの実績の平均値をベースに出しております。皆様の多大なご協力をお願いしたいと思います。

協力金につきましては、計測会の口座が三菱 UFJ 銀行に設けてありますので、そこにお振込みいただきたいと思います。1 口 1,000 円として、最低 3 口からということで支払いいただけたらと思っております。当然、経費削減には努めますが、計測会の継続に最低限必要な費用がかかりますし、また先ほど寺倉会長からもご案内のあった、これからの学生さんへの支援を広げていきたいという議論が始まっていますので、少なくとも年間 50 万円程度の活動費を確保して行きたいと考えています。皆様のご厚志に期待していますので、よろしくお願いいたします。



(守田)

F47の守田です。会計監査です。

先ほどの西村さんから報告がありました収支報告ですけれども、収入の部、支出の部を精査致しまして、正確に記載されているということを確認しまして、ここにご報告を申し上げます。

それから運営協力金の件ですが、今まで2回ほど皆さんにお願いして、今お話になった20万円程の貴重なお金をいただきました。

今回もまた、会長の方からお願いがあると思っておりますけれども、よろしく申し上げます。

我々としては、このように、招き猫の貯金箱を用意しましたので、おそらく40万ぐらいは入ると思いますので、皆さんよろしくお願い致します。

(司会)

ありがとうございました。

参加の皆さん、ご意見、ご質問はございますでしょうか。よろしいですかね。

はい、では、承認頂けたということで、このように進めたいと思います。ありがとうございました。続きまして役員紹介。寺倉さん、よろしくお願いいたします。

役員は舞台の上に集まってください。



(寺倉)

今から役員からほんのひと言ですけれども、自己紹介をいただきます。役員は全部で11名おります。そのうち今日は1人ちょっと都合が悪くて10名が参加しております。今から挨拶します。役員が、先ほど活動の報告がございましたが、その活動を定期的に集まりまして進めてきております。それでは順番にお願いします。

(守田)

守田です。30秒ということなので。私が最近、愛読している和田秀樹医師の本によりますと、今の70代は昔の20代まではいきませんが50台だそうですので、老人パワーで頑張ります。よろしくをお願いします。

(西村)

会計報告させていただきました西村です。会計も一年半が過ぎました。あと、どのぐらい私の役がそのまま続くのかなというふうに思っていますけれども、しっかり頑張らせて頂こうと思えますので、よろしくお願いたします。

(野村)

先ほど活動報告で発表させてもらいました。55年卒の野村でございます。もういっぱいしゃべりましたので。ホームページへの寄稿ぜひお願いたします。

(司会)

小川さんズームで入って頂いていいですか。

(小川)

はい、小川です。

東京支部は、人数はだんだん減ってきてまして、東京に来られる学生さんが減っているということで衰退してますけど。名古屋工業会の総会と一緒に、集まりを今企画しています。メールはそれぞれの会員に届くと思しますので、奮って参加をお願いしたいと思します。以上です。



(小澤)

今日、司会をやらせていただいていますF59の小澤といいます。この計測会が本当に上下のつながりを作れたらということで、みんな一生懸命活動してますので、先ほどのご厚志をいっぱいいただけたらと思します。宜しくお願いたします。

(米谷)

事務局の米谷です。F60、60年卒であります。名工大にいる関係で役員になっております。よ

ろしくお願いいたします。

(伊藤)

63 年卒の伊藤と申します。2 年前から東京勤務になりまして、東京で 2 年経ちました。今年 3 年目なんですけど、コロナの真っ只中に異動しましたので、なかなか東京を楽しめていなかったのですが、今年になって少しずつ東京散策しています。またよろしく申し上げます。

(大鹿)

皆さんこんにちは。

計測会顧問の大鹿でございます。実は役員は年齢順ということですが、私は精神年齢が一番若いというつもりと、とても 30 秒でもしゃべり切れないうことで、一番最後に回らせてもらいました。

名古屋工業会の理事も、もう 6 年近く務めております。また、名工大の OB・OG トップセミナー。これも担当して今年で 4 年以上務めることとなります。大学でいうともう卒業です。後で、事務局長の三田さんからご報告があるかもしれませんが、今年は昨年が続いて計測会から、東海テレビ小島社長が 12 月 7 日に満を持してご登壇されます。

それから寺倉会長もおっしゃったんですが、役員が一丸となって、そういう意味ではチームワークは素晴らしいなど。いつも自分もその一員でありながら、今日、私一人が若干、遅刻してしまいまして、あとは全員揃って時間に間に合っていました。

それからもうちょっと。浅井副理事長からは、中日ドラゴンズの法元さん始め、ユニークな多方面な講演とご紹介いただきましたが、私も法元さんには関与した責任もあって、有難いお言葉をいただきました。高橋先生からは、計測の名前が無くなったこととか、色々大変いいお言葉を頂きました。また、OB・OG と学生の絆と計測会賞。特に自分のことで言いますと、大変嬉しかったのは、外部講師の産業論ということで、自分自身としてはあまりうまく講義できなかったのですが、高橋先生や種村先生の激励のおかげで、何とか学生に伝える話ができたと感じています。

引き続き今年の 12 月から 1 月にも、もう一度リベンジさせていただける機会をいただいたので、まあこの際だから、今年 72 歳になりますけれども、非常勤講師の最年長記録でも目指そうかなと思っておりますので、よろしく申し上げます。長々と大変失礼いたしました。

(大鑄)

F49 の大鑄と申します。今日はカメラマンということで仕事をさせて頂いております。

定年退職してから、もうかれこれ 7 年ぐらいになるんですけども、非常勤講師であったり、統計の仕事を少し手伝わせていただいたりして、まあ何とか生きがいを感じつつ元気です。

去年は計測会のこの総会がすべて ZOOM ということだったんですけども、便利なようで、やっぱり会員皆さんの、何て言うのか、熱い思いというか、皮膚の温度と言いますか、それが感じられなくて、結構頼りない感じが私はしたんですけども、今年は半分ハイブリッドで直接お目にかかることができ大変嬉しく、できれば来年、一年後はフルの対面で開催ができればいいなというふうにしております。今後ともよろしくお願いいたします。



(寺倉)

今、それぞれ役員が一言ごあいさつをいたしました。このメンバーでこれから計測会を盛り上げていきたいと思っております。会員の皆様および関係者の皆様、どうぞ計測会のご支援をよろしくお願いいたします。

(司会)

それでは続きまして会場からスピーチをいただきます。名古屋工業会事務局長、三田さん。よろしくお願いいたします。

(三田事務局長)

事務局長を承っております三田と申します。よろしくお願いいたします。



突然の御指名で、準備はないのですが、実は私個人になりますが、名古屋工業大学に四十数年勤務しております。計測という言葉の響きが、実は全然違ってまして、職員で早川ちょうさ

んというある種、職員の、大学教育関係の職員のあり方の見本の一例みたいな方でしたので、その個性が強かったのも、それが全てではないのですが、そのイメージが強くて、そこから始まっております。

今日、発言機会を与えていただきましたので一言ですけれども。一つは先ほど大鹿様が理事に6年、工業会の方に出てください、そのことについて感謝致します。

今年は計測関係ということで、卒業生の東海テレビの小島社長様が講演していただけるということで、ちょっとコロナで延び延びになっていた感があったのですが、小島様は対面で皆さんに話をしてほしいという非常に強い意欲を持っておられるとお伺いしています。コロナが明けて、学内は10月以降は教室半分制限はすぐなくなる予定ですので、会場いっぱいになりたいという事ですので、計測の卒業生の方々もリモートといわずに会場に来ていただいて、参加していただきたいと言うことをお願いして、是非とも計測関係の応用物理学科の方の大学院生の方々も会場の方に。どうしても今、学生はリモート慣れてしまっているところがあるのですが、会場の方に来ていただいて、直に熱い講演を聞いていただきたいなと思っております。

もう一つ、先ほども全学同窓会のことについての話題が先ほどスライドにもございましたので、少し私の理解として話させていただきます。同窓会組織自体は、そもそもですが、どこどこ学校を卒業した人が加盟するというので、全員加盟が普通。ところが、組織としては、それを支えるために、全員が一定のお金を出せばいいのですが、それが上手くいっておらず、お金を出した人のみで組織しています。名古屋工業会は1967年に法人化しているのですが、法人化するにあたって、組織にお金を出すような人と、それ以外の人とは明確に区分がされてくるということがずっとあったのですが、今年的一般社団法人名古屋工業会としましては、ちょっと二重になりますけれども、今まで非会員と言っていた卒業生の皆さんも、登録会員という名前、もちろん名称だけの呼称に近いのですが、そうさせていただきます、会員としての義務がどうこうということではなくて、仲間なんだよね。ということを確認するための組織改正、組織の規則改正をさせていただいたところであります。

名古屋工業会は、これも大事なことです、全国22支部があって、また今も大事にしております単科会との関係もあって、そういう、ある種のプラットフォームみたいな部分もあると思いますので、これはこれで大変重要なことかなと。私もこの会議の運営に携わさせていただいて、思っているところです。そういう組織ですので、コストがかかることがまた別にあるのですが、何とかそれは維持しながら、大学の発展につなげたいと思います。

以上です。失礼いたします。

(司会)

はい、ありがとうございました。

続きましてWeb参加の昭和40年卒業の白井さん、よろしくお願いいたします。

(白井)

ご紹介いただきました、昭和40年卒、二期生の白井でございます、今日はお話をさせていただく機会を与えられましたので、一言ご挨拶ということでお話しします。



本日のこの 2022 年計測会総会並びに講演会を対面とオンラインの両形式で企画開催をいただきました。計測会の役員の皆様にはあらためて御礼を申し上げます。

思い起こしますと、名古屋工業大学に計測工学科というのが設立されて一期生が入学されたのが、今から 62 年前になります。その方たちが初めて社会人として世に出られましたのが 58 年前であります。

計測会という同窓会は、その直後に設立されましたが、60 年近くも続いている会ということで素晴らしいことだと思っております。その間に計測工学科は時代の流れとともに教育内容が少しずつ変わり、その度に看板も変わりましたが、当初の設立の趣旨に沿って学問を納められた卒業生が会員となられまして、このように長きにわたり、交流を深めてこられたことは本当に喜ばしいことだと思っております。

これまで総会と言いますと、大学の本部に集まって開催されておりましたが、遠方から参加するのはなかなか大変でありますし、私も年とともに腰が重くなって、近年ほとんど参加できていません。加えてこの新型コロナウイルスの流行で外出もままならぬ事となり、各方面でいろいろな集まりができなくなっております。しかし一方で、WEB を用いてオンラインジョブだとかオンライン会議を進める方式が導入されはじめまして、今後の情報交流や情報伝達の一方式として期待が高まっております。今回の総会でも対面とオンライン方式で開催していただき、久しぶりに参加させていただくことになりました。この後、最先端技術やニュービジネスの話も聞かせていただくということで、ぜひ来年度以降も、この方式を活用しまして、計測会の一層の交流を図って頂ければと思っております。

とりとめもない話、ご挨拶というよりお願いのような話になりましたけれども、計測会のますますの発展、それから参加された皆様方のご健勝をお祈りして挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

(司会)

はい、ありがとうございました。

続きまして会場に見える昭和 41 年卒業の河合さん、よろしく願いいたします。

(河合)

皆さんこんにちは。河合でございます。久しぶりに対面ということで、この総会に出席ができて大変喜んでおります。



私は5,6年前、守田さんが会長をされて、大鹿さんが副会長か何かおやりになった時からこの総会に、毎年出席させていただいております。

すごうれしいんですね。思えば、60年前に4年間、ここで過ごした4年間はかけがえのない私の財産です。先ほど、三田さんから早川ちょうさんの話が、名前が出ましたが、後でちょっと詳しく聞かせてください。

そんな次第で素晴らしいこの仲間っていいですか、そういう仲間の皆さんに私はお会いできて元気で今も暮らしております。

ちょっと司会の方に私からの質問がありますので。先ほど会計の西村さん、いろいろ詳しくご説明されましたけれども、本当によくあれだけの少額の金額で運営されているなど。例えば、一番最初にびっくりしたのは計測会賞。ゼロが1個、落ちてるんじゃないのと思いました。あの立派なペンですか。ペン1万円。それはそれで良いと思いますが、もう少しやっぱりそれなりの賞を取るような方は、きっといろいろ書物も買い、いろいろなところへ出かけて実験もし、かなりのお金を使っていたのじゃないかなと。もう少し色をつけてあげていただけたらなあと思いますので、どうぞ寺倉会長、その辺もう一度、協力金でしたかね。協力金20万円を見込むと書いてありますが、応用物理学の領域の方々もこれからは計測会の会員となるというような話ですので、メンバー増えるんじゃないですか。増えるとしたら、そういう方たちにも、一口3000円をぜひ強かに呼び掛けていただいて、もう少し余裕を持った運営ができるように、ぜひ寺倉会長に私からお願いさせていただきます。

それで振込先がさっき出ましたけども、ちょっとよくわからないので、いつ頃そういう協力金の要請がくるか、今ここで教えてください。

寺倉会長が二週間以内と回答

二週間以内に。はいわかりました。楽しみにしています。

本当に皆さん、これから先もこの計測会が寺倉会長を中心に、どんどんどんどん発展して行くことを心から望みます。以上です。

(司会)

ありがとうございました。

しっかり集金させていただきますので。ありがとうございます。

続きまして会場に見える昭和 54 年卒業の河村さん、よろしくお願いいたします。

(河村)

皆さん、F54 の河村です。

本日、この挨拶のお時間をいただきましたのは、おそらく同期会をこの 3 年前に計画しようと進めて来たということだと思います。



卒業後 40 年目となる、ちょうど 3 年前の時に F54 の同期会を開催したいと、今日、会場と一緒に来てるんですけど、計測数学の卒研で一緒だった那須君が言い出しまして。それで、計測会にお願いしまして名簿をいただきました。頂いた名簿を基にして、その一年後の 2020 年の春に同期会を開催すべく準備を進めてきたんですけど。会場は、この近くの浩養園。そして先程来、話も出てますけど、計測工学科のマドンナであります早川ちょうさんにも特別ゲストとしてご出席をいただく予定でしたけれど、残念ながら新型コロナにより開催は延期となりました。来年こそは開催したいと思っております。

ここで皆さんにお伝えしたいのは計測会のありがたさ。いただいた名簿の精度が、もうずば抜けて高く、7 割の卒業生の消息をいただくことができました。その後、同期のみんなから情報をいただいた中で消息判明したのは、わずか 7 名ということでしたので、この名簿がなければ、とても同期会の開催は無理だと思います。

60 を過ぎると暇とお金があって、お金はわかりませんが、名工大と一緒に過ごした同期とおそらく会いたくなるという思いが強くなるのが、60 過ぎてからだというふうに思いますけれど、計測会はこれからも存続し続けていただかないと困ります。皆さんにお願いしたいのは、計測会発展にお力添えをお願いしたいので、そのためには、同期会を開催して同期の消息を把握して分母を減らさないということだと思います。

また、先程来、出ております計測会の運営にはお金が非常にかかります。

ですから、この運営協力金、二週間後に案内がやってくるということだと思いますけど、直接的

な支援も皆さんにお願いしたいということで、以上でわたくしのご挨拶とさせていただきます。
ありがとうございました。

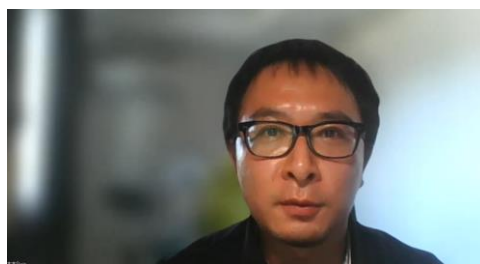
(司会)

はいありがとうございました。

お時間もなくなってきましたので、最後に WEB で参加していただいている若手代表ということで、
元木さんよろしくお願いたします。

(元木)

皆さんこんにちは。H 20 卒業の元木と申します。米谷先生の研究室出身で、本日、画面越しですが、先生のお顔を拝見でき、とても嬉しく思います。本日は、このような貴重な会を設けていただき、本当にありがとうございます。少しだけ自己紹介を含めてご挨拶させていただきたいと思ひます。



私はトヨタ自動車に新卒で入社して、車両系の生産技術を担当しておりました。そこから、少しご縁があって、名工大出身としては珍しく、2018 年から全社の人事の方で技術系の新卒採用の担当をさせていただきました。当時、就職担当だった高橋先生に大変お世話になりました。ありがとうございました。

名工大の学生の印象を言うと、トヨタ自動車には全国のいろんな大学から入社いただきますが、その中でも特に名工大の学生は、しっかり意思を持って行動ができ、また、人の意見をしっかり聞いて、謙虚にひたむきに努力ができる学生だと、本当に多方面の職場の方から言われています。それゆえ、いろんな偉大な諸先輩方もおられますが、新卒でも毎年のように名工大全体から約 20 名弱、過去の計測物理系プログラム、今の応用物理分野からも、毎年、絶えず入っていただいていると思っております。学業面でも、しっかり基礎を身につけていることや、コミュニケーション能力も含めて、今、本当に大事な人間力というのも、しっかり鍛えてくださっている先生方のご指導の賜物だと感じている次第です。この場を借りて御礼申し上げます。

また、上下横のつながりとしても、会社の中でも計測出身者で、毎年のように親睦会なども実施しており、最近ではコロナの関係で、できていないところもあるんですけども、それが本当に横のつながりで、仕事でもふと生きる。私生活でもふと生きる機会ってというのもあります。このような計測会としての仲間としてのつながりってというのが本当に大事ななと感じております。今後とも引き続きよろしくお願いたします。以上です。

(司会)

はい、ありがとうございました。

総会のプログラムはすべて終了いたしました。以上で計測会総会を終了いたします。

15時15分から講演会を開始いたしますので、それまで休憩といたします。

ありがとうございました。

===== 講演会後の閉会挨拶 =====

(司会:小澤)

それでは閉会の挨拶。大鑄さんよろしくお願い致します。

(大鑄)

さっきの役員紹介のところで一度出てきたんですけれども、二度目の顔出しということです。2時から始まりまして、だいたい2時間少々ということで、同窓会ですから、お年寄りの方もおられて、多分、お年寄りの方は「疲れた」ということがあるかも知りませんが、ここに参加して頂いた現場とそれから ZOOM への参加も含めて、皆さんの熱意と言いますか、熱い思いと、それから福澤さんの夢のある話で、おそらく皆さん元気づけられたのではないかなと思っています。



一年前に総会をやった時、最後の締めの挨拶をやらせていただいたのですが、その時に確か、「ビール飲もうと言いたいよね」と、一年後には是非そう言いたいなということで締めさせていただきましたが、今回も未だそれは言えなくて、多分、もうあと一年後、来年にはフルに懇親会を行って、「ビールを飲もう」という感じで、総会、それから講演を終えたいなと思います。

いずれにしてもコロナということと、それから今年2月にロシアの侵攻があって、世界全体がおそらく重い雰囲気にも包まれているんだろうと思います。にもかかわらず、計測会では着々と成果が挙げられていまして、特にこの一年で大きな成果であったと思えるのは、ホームページの作成であったと思います。これはほぼ100%野村さんのご尽力によって作り上げられたと思います。それで、次の一年間は、おそらく物理工学科応用物理分野との関係性をいかに構築して行くのか、ということが最大のポイントになるかと思っています。これに関しても、役員一同だけではなくて、計測会全員でもって、見える形にしていければと思っています。

福澤さんのご講演、夢のある非常に楽しいお話だったと思います。翻って、計測会ということ

について、我々いったい、いかなる夢を持って計測会の活動を進めて行けばいいのか、ということ振り返ってみた時に、うん、あれもこれもというような感じで、思うところは多々あったところではあります。それで、そこらへん、皆さんと、是非、共有しながら、今後進めていきたいと思えます。

来年はぜひ懇親会で皆さんの笑顔を見たいなと思えます。

簡単ではございますが、指名のご挨拶とさせていただきます。どうもありがとうございました。
(司会)

大鑄先生、ありがとうございました。

それでは、これにて2022年度計測会総会と講演会を終了といたします。

なお、今回の総会と講演会のアンケートをメールで配信しますので、ご協力のほどよろしくお願い致します。

また、この会場におられる方は、会場の外のロビーで記念写真を撮りますのでお集まりください。よろしくお願ひします。それでは皆さんお疲れ様でした。ありがとうございました。



ロビーからホール舞台に変更して記念撮影